報　告

幼児におけるボディ・イメージの評価的側面に関する検討

—身体満足度・理想体型・身体感覚との関連から—

江　原　千　恵

〔論文要旨〕

本研究では幼児を対象に，「身体満足度」，「理想体型」，「身体感覚」という３つの側面からボディ・イメージの特性を検討した。５歳児クラスの63名（平均年齢は６歳３か月，年齢範囲は５歳10か月～６歳10か月）を対象にインタビュー形式で実施した。結果は次の通りであった。１）身体満足度（Body-Cathexis Scale：以下BCSと略す）については，女児の方が男児よりもBCSが高かった。また，男児は身長と体重に対して女児よりもBCSが高く，女児は体格に対して男児よりもBCSが高い結果を示した。２）理想体型では，現在の自己の体型と将来の理想体型ともに，女児よりも男児の方が普通体型を選択した割合が高かった。将来の理想体型については，特に女児が男児よりも有意に痩せ体型を理想としていた。３）身体感覚では，現在の体型と将来の体型ともに，男児と女児がLarge項目としてとらえている身体部位は，「脚」の部位であった。身体部位の大きさに関しては，５歳児は自己のボディ・イメージを客観的にとらえることができると推測できる。以上の結果から，幼児期のボディ・イメージの特性が明らかにされた。

Key words：ボディ・イメージ，幼児，発達，身体満足度

Ⅰ．はじめに

現代の子どもたちは，さまざまなストレスを抱えているために，摂食障害や心身症などを引き起こす可能性が少なからず推測できる。これらの障害を早期発見するための手段として，幼児期のボディ・イメージについて着目した。ボディ・イメージは[注1]，通常「身体像」と訳されており，自分の身体について思い描いた心像，あるいは視覚的なイメージから自身の身体をとらえたものである。心像あるいはイメージの特徴は，輪郭があいまいで変化しやすいことから，ボディ・イメージも決して固定的なものではなく，思春期の発達過程の影響も，受けやすいとされている。この時期におけるボディ・イメージの評価的側面の研究では，Body-Cathexis Scale[1]が挙げられる。小学生を対象に，身体満足度や理想体型の評価を調査した結果は[2]，男子の方が女子よりも満足度が高い。理想体型については，特に女子の痩身願望が見られることが指摘されている。これらの先行研究は，幼児を対象に調べたものではないが，幼児のボディ・イメージが明らかになれば，日常の生活場面や保育場面において，心身の健康状態の把握や，基本的な生活指導に関する保育者の言語教示の方法を提示することができる。また，特異的なボディ・イメージを早期発見することは，環境や人間関

[注1]本研究では，個人が生活経験に基づいて自分の身体をどのように意識しているかといった身体像のとらえ方を中心に[3]，身体意識，自己身体の概念（身体概念）をボディ・イメージとする。

A Study of Appraisal Aspect of Body Image in Young Children：
Based on the Relationship between Body Satisfaction, Ideal Physique, and Body Perception
〔2126〕
受付 09. 3.23
採用 10.11.17
Chie EBARA
姫路獨協大学医療保健学部こども保健学科（教育職/研究職）
別刷請求先：江原千恵　姫路獨協大学医療保健学部こども保健学科　〒670-8524 兵庫県姫路市上大野7-2-1
Tel：079-223-6684　Fax：079-285-0352

Presented by Medical*Online

係などに対して，適応することができない等の問題を阻止できる可能性が考えられることからも，ボディ・イメージに関する研究は，幼児の心身の調和的な発達において重要なことである。幼児期においても，青年期と同様にステレオタイプ的な「身体満足度」，「理想体型」，「身体感覚」の評価的態度の芽生えがあることが予測される。そこで本研究では，子どもたちが抱く自己の身体に対する意識のあり方を明らかにするために，「身体満足度」，「理想体型」，「身体感覚」の側面から，幼児のボディ・イメージについて検討することを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1．調査対象

奈良市にあるN幼稚園の，5歳児クラスに通う園児63名（男児32名，女児31名）を対象とした。なお平均年齢は6歳3か月で，年齢範囲は5歳10か月～6歳10か月であった。出生順位は第一子が32.4%を占め，第二子が58.9%であった。残りの8.7%については第三子と第四子であった。両親の年齢は30代前半が最も多く，次に30代後半が多かった。家庭で過ごす時間のうち最も長時間接しているのは母親であった。

2．インタビューの方法

実際に健常な子どもたちが自分自身の身体をどのように意識しているのかを明らかにするために，身体満足度，理想体型，身体感覚に関する項目について，インタビュー形式で尋ねた。個室で1対1の面接を行い，テープレコーダーによる録音と検査者である筆者の筆記で，すべてを記録した。身体満足度については，「あなたの頭はどこですか。手で触って下さい」と教示し，各部位について身体部位の認知を確認してから行った。理想体型については，絵の尺度[4]を参考に作成した絵カードを検者が指して，それに子どもが答えた。

3．評価スケールⅠ（身体満足度）

被験児の身体に対する満足度を知るために，BCSに基づく先行研究[1,5,6]を参考に，身体部位別に身体満足度の質問項目を作成した。原法の60項目を，幼児の身体部位の認知を考慮して19項目に絞り込んだ[7,8]。回答は，「不満である（気に入っていない）」を1点，「普通である」を2点，「満足である（気に入っている）」を3点とした3件法とし，得点化した。

4．評価スケールⅡ（理想体型）

Collinsの絵の尺度[4]を参考に，3段階〔痩せている（痩身）・普通・太っている（肥満）〕の尺度で作成した絵カードを使用した。被験児は，最初の質問で自己の体型が現在どれに当てはまるのか（図1，図2），そして第2の質問で将来どの体型になりたいかを尋ねられ（図3，図4），自分の性別と同じ絵カードを指して答えた。なお理想体型については，大きくなったらどの体型になりたいかを選択させた。

5．評価スケールⅢ（身体感覚）

BCSは[1]，身体形態，身体機能，運動能力を表す項目から構成されている。特に身体感覚については，「長い，太い，小さい」等の感覚を身体のどの部位に感じているのか，Semantic Differential methodいわゆるSD法[9]を参考にした調査を試みた[9,10]。自己の身体部位に関しては，「長さ，大きさ，幅」の物理的な尺度から，「長い―短い」，「大きい―小さい」，「太い―細い」の対称的で両極を示す3項目を取り上げ，身体感覚尺度とした。

幼児に事前調査を実施した際，3項目の概念を理解することが可能であったので，「現在の体型」と「将来の体型」について『「長い，大きい，太い」と思う身体部位はどこ？―「短い，小さい，細い」と思う身体部位はどこ？』の，対称的で両極を示す質問をペアで実施した。

6．処理および分析方法

統計解析はSPSS 11.0 for Windowsを用いた。また，有意差の判定は，Student t検定，χ^2検定を用いて5%および1%有意水準で行った。

Ⅲ．結　　果

1．幼児の体型の特徴（表1）

男児の方が女児よりも身長がやや高く，体重が有意に重く（$p<0.05$），カウプ指数は高い傾向が見られた。

2．身体満足度について（表2，3）

自己の身体満足度は，「頭部，顔」の部位では，男児よりも女児の方が，満足度が高い傾向が見られた。BCS合計は女児の方が男児よりも高かった（表2）。

各身体部位の満足度による順位づけを，平均値の高い順に行った（表3）。北岡らの論文[5]を参考にして，

Presented by Medical*Online

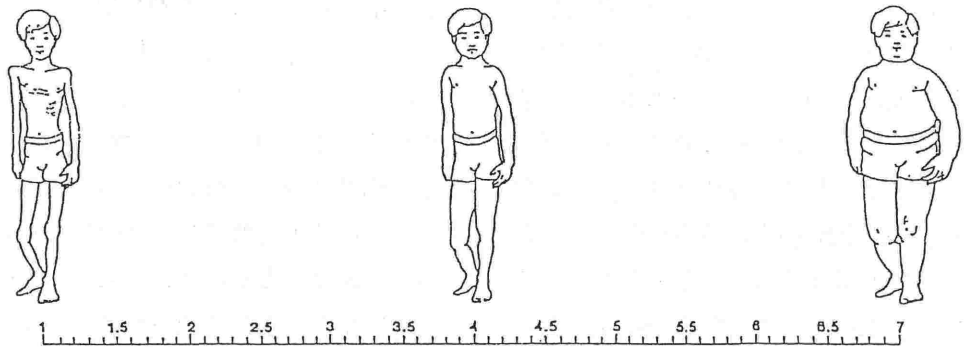

図1　現在の自己の体型（男児）

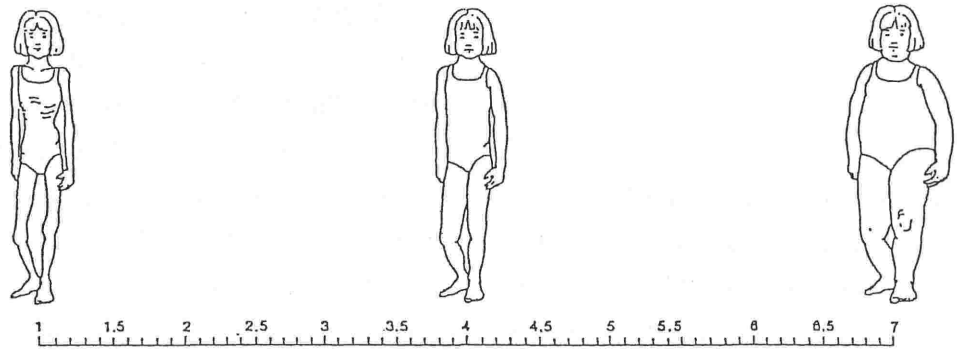

図2　現在の自己の体型（女児）

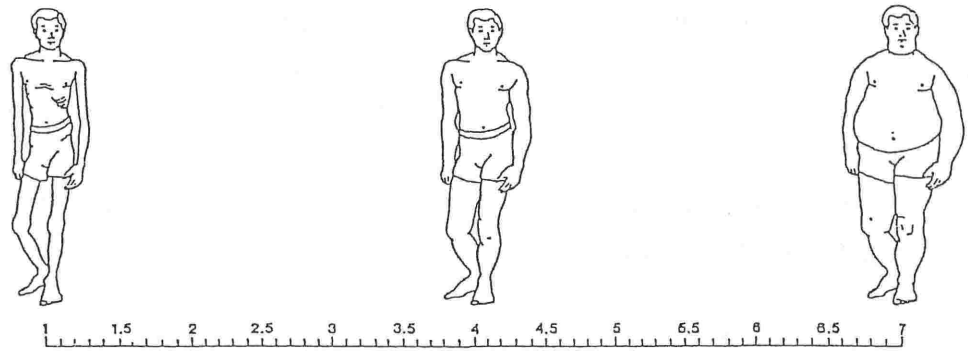

図3　将来の理想体型（男児）

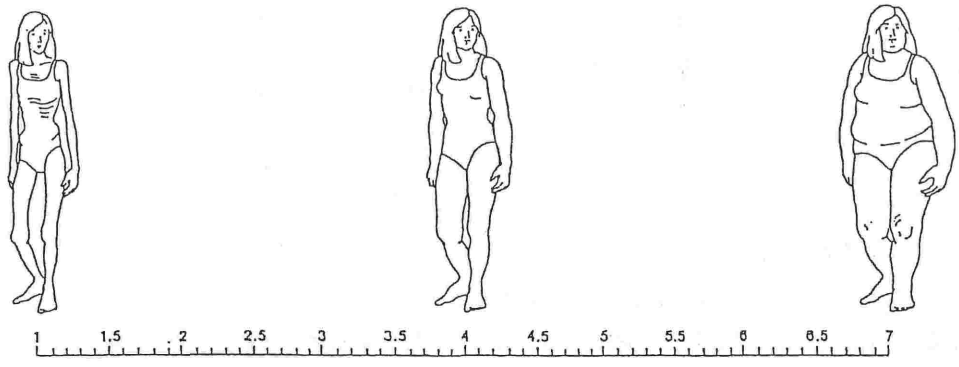

図4　将来の理想体型（女児）

上位5項目をポジティブな身体特性とし，下位5項目をネガティブな身体特性とした。ポジティブな傾向を示した部位の中で，男女児ともに「身長」が最も満足度が高かった。さらに，「手の形」が5番目に満足している部位として共通であった。男児は四肢の部位（指，手の形，脚）が多いのに対し，女児は顔の部位（顔，

Presented by Medical*Online

表1　体格の平均値と標準偏差

	全員（n＝63）			男児（n＝32）			女児（n＝31）			t
	平均	SD	範囲	平均	SD	範囲	平均	SD	範囲	
身長，cm	114.5	4.33	105.3～125.0	115.5	4.24	108.8～125.0	113.4	4.25	105.3～123.6	1.93†
体重，kg	19.8	2.28	15.4～ 26.2	20.4	2.08	16.3～ 24.4	19.1	2.32	15.4～ 26.2	2.37*
カウプ指数，index	15.1	1.23	12.9～ 18.4	15.3	1.28	12.9～ 18.4	14.8	1.13	12.9～ 17.2	1.63

注．† $p<0.1$，* $p<0.05$

表2　身体満足度の部位別平均値と標準偏差

	男児（n＝32）		女児（n＝31）		t
	平均	SD	平均	SD	
1　頭	2.03	0.48	2.26	0.51	1.78†
2　首	2.20	0.61	2.03	0.55	1.13
3　腕	2.26	0.58	2.16	0.58	0.66
4　手の形	2.29	0.59	2.32	0.65	0.20
5　脚	2.29	0.59	2.13	0.62	1.05
6　足の形	2.06	0.73	2.23	0.72	0.88
7　指	2.35	0.61	2.16	0.64	1.22
8　髪	2.19	0.70	2.35	0.61	0.97
9　眉毛	1.97	0.71	1.90	0.75	0.35
10　目	2.23	0.62	2.39	0.56	1.08
11　鼻	1.87	0.62	1.84	0.64	0.20
12　口	2.23	0.62	2.32	0.60	0.63
13　耳	1.94	0.57	2.16	0.58	1.54
14　身長	2.48	0.57	2.43	0.50	0.37
15　体重	2.33	0.66	2.23	0.57	0.63
16　体格	2.10	0.60	2.32	0.54	1.56
17　顔	2.16	0.64	2.42	0.50	1.77†
18　歯	2.39	0.62	2.23	0.67	0.99
19　臀部	1.73	0.64	1.68	0.75	0.31
BCS 合計	40.94	6.92	41.42	6.24	0.29

注．† $p<0.1$

目，髪，口）が多かった。

ネガティブな傾向を示した部位の中で，男女児ともに最も低い満足度を示したのは「臀部」であった。次いで「鼻，眉毛」が満足していない部位として共通であった。男児では「脚，腕」といった部位が上位にあったが，女児ではこれらの部位が下位にある傾向を示した。

3．理想体型の特徴について（表4，5）

「現在の自己の体型（図1，2）」と「大人になった時（将来）の理想体型（図3，4）」の度数分布表を示す（表4，5）。

自己の体型を見栄えという観点から視覚的に評価させたところ，「現在の自己の体型」と「将来の理想体型」ともに，肥満体型を選んだ幼児はいなかった。「現在の自己の体型」で普通体型を選んだ幼児は80.6％以上であり，「将来の理想体型」では61.3％以上であった。痩身体型は，「現在の自己の体型」と「将来の理想体型」ともに，女児の方が選択した割合が高く，「将来の理想体型」においても痩身体型を選択する割合が，男児よりも有意に高かった（$\chi^2=8.11$, df＝1，$p<0.01$）。

表3　身体満足度の部位別順位

身体部位	男児の順位	身体部位	女児の順位
身長	1	身長	1
歯	2	顔	2
指	3	目	3
体重	4	髪	4
手の形	5	手の形	5
脚	5	体格	5
腕	7	口	5
目	8	頭	8
口	8	歯	9
首	10	体重	9
髪	11	足の形	9
顔	12	指	12
体格	13	耳	12
足の形	14	腕	12
頭	15	脚	15
眉毛	16	首	16
耳	17	眉毛	17
鼻	18	鼻	18
臀部	19	臀部	19

表4　「現在の自己の体型」の性差

	男　児	女　児
普通体型	30(93.8)	25(80.6)
痩身体型	1(3.1)	3(9.7)
肥満体型	0	0
無回答	1(3.1)	3(9.7)

表5　「将来の理想体型」の性差

	男　児	女　児	
普通体型	28(87.5)	19(61.3)	
痩身体型	1(3.1)	9(29.0)	*女児＞男児
肥満体型	0	0	
無回答	3(9.4)	3(9.7)	

*；$\chi^2=8.11$，$p<0.01$

Presented by Medical*Online

4．現在と将来の体型における身体感覚について（表6）

表6は，各質問において子どもたちがイメージする身体部位を，自由に答えたものを（複数回答可）度数分布表として示し，回答された部位を身体満足度で選出した19部位に分類したものである。

質問項目の尺度を量的にとらえると，『長い，大きい，太い』の身体感覚は自己の身体部位に対して，量的に多くをとらえていると考え，Large項目として合計した。これに対して『短い，小さい，細い』の身体感覚は自己の身体部位に対して，量的に少なくとらえていると考え，Little項目として合計した。

現在の自己の体型で，男女児ともにLarge項目としてとらえている部位は「脚」で，男児がLittle項目としてとらえている部位は「腕」，女児は「耳」であった。Large-Little項目の各部位の特徴であるが，男女児ともに“長い”と感じる部位は「脚」であり，男児が“短い”と感じる部位は「腕」，女児は「首」であった。男女児ともに“大きい”と感じる部位は「顔」であり，“小さい”と感じる部位は「耳」であった。男女児ともに“太い”と感じる部位は，「脚」であり，男児が“細い”と感じる部位は「指」，女児は「髪」であった。

将来の自己の体型で，男女児ともにLarge項目としてとらえている部位は「脚」で，男児がLittle項目としてとらえている部位は「腕」，女児は「指」であった。Large-Little項目の各部位の特徴であるが，男女児ともに“長い”と感じる部位は「脚」であり，男児が“短い”と感じる部位は「腕」，女児は「指」であった。男児が“大きい”と感じる部位は「体格」，女児は「脚」であった。これに対して男児が“小さい”と感じる部位は「腕」であったが，女児は特徴的な部位が見られなかった。男女児ともに“太い”と感じる部位は，「脚」であり，男児が“細い”と感じる部位は「腕，脚」，女児は「脚」であった。

Ⅳ．考　　察

1．身体満足度の実態

自己の身体満足度においては，意外にも女児の方が男児よりもBCSが高く，青年期の一般的傾向とは逆

表6　SD法による身体感覚の特徴

男児：現在		男児：将来		質問項目	身体部位	女児：現在		女児：将来	
Large	Little	Large	Little	No.		Large	Little	Large	Little
8	2	1	0	1	頭	1	0	2	0
2	6	0	1	2	首	0	9	1	0
6	12	10	10	3	腕	10	6	6	3
1	3	1	1	4	手の形	2	4	3	2
31	5	30	4	5	脚	30	5	28	4
0	3	1	1	6	足の形	0	2	1	0
0	7	0	0	7	指	0	4	0	5
1	2	1	2	8	髪	12	9	3	1
0	1	0	0	9	眉毛	0	3	0	0
0	6	0	0	10	目	0	10	0	0
0	2	0	0	11	鼻	2	3	1	0
0	0	0	0	12	口	0	3	1	0
0	5	0	2	13	耳	1	12	0	1
0	0	10	0	14	身長	0	0	14	1
0	0	0	0	15	体重	0	0	0	0
5	0	10	1	16	体格	4	0	4	1
14	2	3	3	17	顔	8	2	3	0
0	0	0	0	18	歯	0	0	0	0
0	1	0	0	19	臀部	0	1	1	0

Presented by Medical*Online

の結果を示した[6,11]。「身長，体重」は女児よりも男児の方が満足度が高く，「体格」は女児の方が男児よりも高かったことから，女児は自己の「体格」を全体のシルエットやプロポーションとしてとらえて満足していると推測できる。これに対して男児は，自己の「体格」を身長と体重に分割して満足していることが，女児よりもBCSが低い結果と関連していると推測できる。これらの結果は，幼児を対象に自己像を描かせたTanakaら[12]の先行研究において，男児が女児よりも身長に対して興味を持つ結果と同傾向を示した。身長に対する男児の内省報告では「僕，幼稚園の中で1番高い」と喜んでいたり，「むっちゃ毎日測りたい」というような，積極的で肯定的な意見が多数聞かれた。青年期の男性の自己満足においては，身長が伸びていることが重要であると指摘されているが[13]，幼児期の男児においても，身長とBCSとの関連が示唆された。

身体部位の特徴を性差からとらえると，ポジティブな傾向を示した部位は「頭部，顔」で，男児よりも女児の方が，満足度が高い傾向が見られた。女児の内省報告でも，「自分の顔を鏡で見るの好き」といった意見が多数聞かれた。青年後期におけるボディ・イメージの特質として，女子では他者の目にさらされる部位に高い関心を持つ研究結果[11]と同傾向を示すことからも，社会的な存在としての自分を強く意識している傾向が，幼児期の女児においても見られた。対照的に男児は，「顔」に関する部位ではなく，四肢の部位に身体満足を得る傾向が見られた。幼稚園の観察では，ボール投げやサッカーなどの運動遊びで，「腕」や「脚」を使っている姿が多く見られるが，それらの経験と関連する部位に興味や関心を示していることが示唆された。女児では，これらの部位が下位にある傾向を示した。男児と比較した場合，日常生活における運動遊びの経験が少ないことや[14]，特に“走る，投げる”といった運動能力が低い結果[14~16]との関連が示唆された。

対照的にネガティブな傾向を示した部位は「臀部」で，男女児ともに最も満足度が低かった。被験児の内省報告では，「お尻は汚い所だから嫌い」という意見が多数聞かれたが，臀部の形に興味や満足を示すのではなく，排泄と関連する部位として不満傾向が強いと考えられる。

2．理想体型の実態

男児は標準的な体型であるものが多く，実際にそのように正しく認識していた。

対照的に，「現在の自己の体型」と「将来の理想体型」は，女児の方が痩身体型を選択した割合が男児よりも高かった[17]。「将来の理想体型」は，痩身体型を理想とする割合が3割弱であった。幼児の場合も，近年の思春期女子が，痩身体型を標準体型と認識している結果[18]と同様の傾向を示した。

男児は将来も普通体型で良いのに対し，女児は痩身体型を理想としていることが明らかになった[17]。これらの結果は，小学生と成人を対象とした，女性の方が男性よりもより細身の体型を理想としていた調査結果[3]と類似した傾向を示したが，幼児の場合は女児の方が普通体型以外の体型を多様に選択する傾向が見られた。また大学生の男女を対象に，身長・体重・胸囲・胴囲等を計測した身体の実測値と，それらを理想とする値（理想値）を調査した結果[11]，男子と比較すると女子の方が，理想値が実測値よりも小さいことを明らかにした結果とも，同様の傾向が見られた。

実際の体型では，カウプ指数から標準的な普通体型であることがわかるが，男児と女児とでは選択した理想体型に大きなずれが見られる。実際に，痩身体型を選択した女児の内省報告では，「理由はわからないけど細くなりたい」，「何でも着られるしキレイだから」，「太ったらいや！」，「かわいい服，いっぱい着れる」等の意見が聞かれた。これらの結果から漠然とはしているが，幼児期から“痩せている方が良いのではないか”というステレオタイプ的な思考の存在が示唆された。また，「お母さんが，お腹を痩せたいと言っている」，「ダイエットをテレビで観たことある」と言った内省報告も多く聞かれた。特に日常生活の中では，母親と過ごす時間が最も長いことから，母親との会話やTV番組などの影響を受けていることが推測される。

3．身体感覚の実態

将来の体型で，“太い”または“細い”と意識する部位には，男女児ともに「腕，脚」の四肢に関する部位が見られた。インタビュー調査を実施する以前に人物画を描いた際も，短くまたは太く描かれており，その特徴がよく表れていた[7]。特に女児は，「指」をLittle項目としてとらえているが，「小指は1番小さいねん」，「指は小さいまま変わらない」などのコメントから，成長に伴い指が小さくなっていくのではなく，現在の形態のまま将来も変わらないと理解していること

Presented by Medical*Online

が示唆された。

幼児期の特徴として，四肢に関する「脚」の部位は，Large 項目の値が最も大きく性差は見られなかった。対照的に「腕」の部位は，性によって Large 項目と Little 項目の値に反対の傾向が見られることから性差が大きいことが推測できる。“長い”部位で「脚」を選択した幼児のコメントでは，「脚だけが長くなる」，「骨が痛くなると伸びてくるとママから聞いた」などの意見が聞かれたことから，日常生活における母親の言葉かけが，少なからず影響を与えていることが推測される。また“細い”部位で「脚」を選択したコメントでは，「細くなって長くなる」の意見があった。この時期の子どもたちにおいては，将来自分の体型がどうなるのか，その特徴をとらえるために，四肢の部位が成長すると体が大きくなり背が高くなるといったような，身体感覚の側面での基本的なボディ・イメージが，芽生え始めることが示唆された。

V．結　　論

1．幼児のボディ・イメージの特性を「身体満足度」，「理想体型」，「身体感覚」の３つの側面から検討した結果，各側面には性による違いが明らかとなったことから，保育の現場での健康面や運動面の指導の向上につながる可能性を示唆することができた。

2．身体満足度は，男児は身長と体重に対して女児よりも満足度が高いのに対し，女児は体格に対して男児よりも満足度が高い結果を示した。理想体型は，現在の自己の体型と将来の理想体型ともに，女児よりも男児の方が普通体型を選択した割合が高く，身体感覚では現在の体型と将来の体型ともに，部位によっては客観的にその特徴をとらえることができることが示唆された。

謝　辞

本研究に際しまして，調査にご協力下さいました幼稚園の諸先生方，園児の皆様に深く感謝の意を表します。論文の要旨は，第57回日本保育学会（2004年）にて発表した。

文　　献

1) Secord RF, Jourard SM. The appraisal of body-cathexis : body-cathexis and the self. J.Consult.Psychol. 1953 ; 17 : 343-347.

2) 遠藤俊郎，阿江美恵子，三宅紀子．自己の身体に対する意識の変容―第１報：小学生を対象として―．日本体育学会　第51回大会号　2000 ; 172.

3) Shilder P. The image and appearance of the human body. London : Kegan Paul 1935 : 11-34.

4) Collins ME. Body figure perceptions and preferences among preadolescent children. Int. J. Eat. Disord. 1991 ; 10 (2) : 199-208.

5) 北岡和彦，松島　宏．女子の Body Image についての発達的一考察．武蔵野女子大学紀要　1980 ; 15 : 121-131.

6) 中島宣行，太田鉄男．身体意識についての研究Ⅱ；大学生のボディ・カテクシス．順天堂大学保健体育紀要　1980 ; 23 : 1-9.

7) 田中千恵，佐久間春夫．人物描画法における幼児期の Body Image の特性について．乳幼児教育学研究 2003 ; 12 : 11-19.

8) 小林重雄．グッドイナフ人物画知能検査・ハンドブック．三京房　1991 ; 16-34.

9) Osgood CE, Suci GJ, Tannenbaum PH. The measurement of meaning. Unv. Illinois Press. 1957 ; 77-98.

10) 井原栄二．障害児のことばの指導の実践的視点（9）生活科の検討：聴覚障害児の言語指導講座から．愛媛大学教育学部障害児教育研究室研究紀要　1992 ; 16 (2) : 5-42.

11) 齋藤誠一．青年期のおけるボディーイメージの特質と関連要因の検討．神戸大学教育学部研究集録 1993 ; 90 : 245-251.

12) Tanaka C, Sakuma H. The relationship between human figure drawing size and body image in preschool children from a self-physique perspective. Percept.Motor. Skill. 2004 ; 99 : 691-700.

13) 柴田利男．青年期の身体満足度が対人不安および自己開示行動に及ぼす影響．心理学研究　1990;61 (2) : 123-126.

14) 田中千恵．子どもの遊びに関する実態調査．神戸親和女子大学教育研究センター紀要　2006 ; 2 : 1-6.

15) 田中千恵，佐久間春夫．幼児の運動能力の発達に関する研究：年齢および性別との関連について．身体教育医学研究　2002 ; 3 (1) : 15-20.

16) 文部科学省．平成20年度　全国体力・運動能力，運動習慣等調査結果について．

Presented by Medical*Online

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/01/1217980.htm（2009年1月21日引用）
17）忠井俊明，金井秀子，各務美佐緒，他．自己身体イメージの発達に関する検討．京都教育大学教育実践研究年報　1993；9：25-34.
18）岩渕忠敬．身体意識についての研究Ⅶ：身体満足と体格について．順天堂大学文理学紀要　1985;28:3-7.

〔Summary〕

Characteristics of body image based on the three aspects of "body satisfaction", "ideal physique" and "body awareness" in young children were studied in the current research. Sixty three children aged from 5-year-olds to 6-year-olds and 10 months (average age ; 6 years, 3 months) in a class of "5-year-olds session" were interviewed. The results were as follows. 1) Regarding body satisfaction [Body-Cathexis Scale (It translates into BCS)], girls had a higher BCS than boys. In addition, boys had a higher BCS with respect to height and weight than girls and girls had a higher BCS with respect to physique than boys. 2) Regarding ideal physique, a larger proportion of girls than boys selected a normal physique based on their current physique and the ideal physique they hope to achieve in the future. Regarding the ideal physique they hope to achieve in the future, girls in particular imagined a significantly thinner physique than boys. 3) Regarding body awareness, the children were asked about their current physique and the physique they hope to achieve in the future ; the body region perceived as Large by boys and girls was the region of the "legs." With regard to the size of body regions, objectively perceiving 5-year-olds children's own body image is surmised to be possible. The characteristics of body image in childhood have become apparent based on these results.

〔Key words〕
body image, children, development, body-cathexis scale

Presented by Medical*Online